

令和 4 年 6 月 28 日現在

機関番号：36101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K02530

研究課題名(和文) 冷戦とグレアム・グリーンメディア戦略

研究課題名(英文) The Cold War and Graham Greene's Media Strategy

研究代表者

阿部 曜子 (ABE, Yoko)

四国大学・文学部・教授

研究者番号：60294732

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：グレアム・グリーンの中後期の作品群や、彼が新聞等のメディアに発信した言説を、「冷戦」という文脈から再検証することが本研究の目的である。世界が経済的・政治的・文化的に深い対立構造の中にあつたこの時代に、グリーンが「キューバ危機」等冷戦期の出来事を予見したり、英米の諜報活動の実情を暴き擲諭したりした刺激的作品の数々は、同時期にグリーンがメディアに寄せた記事や、大学等の公的な場で行つたスピーチ等での言説と連動したものであることがわかり、文学がメディアと相互的・共犯的な関係を築いていくプロセスや可能性を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、今世紀になってようやくその政治的な言説が注目され始めてきたグレアム・グリーンが、20世紀後半の複雑な世界情勢の中でメディア等に発信し続けた言説、並びに同時期に書かれた作品群を、「冷戦」という文脈で読み解いていくことで、文学・政治・文学・メディアのインタラクティブな関係と、その生成/創造のプロセスの解明を意図するものである。文学という領域から、「冷戦」という極めて政治的な状況を俯瞰し、再検討することは、学際的な研究としても意義がある。

研究成果の概要(英文)： This study examines Graham Greene's fictions and his writing in the media from the perspective of the conflicts during the Cold War. Greene wrote fictions in which he predicted the Cuban missile crises and disclosed the intelligence operations of the West, with the profound insights into the era when the world was in economical, political and cultural conflicts. Greene's many controversial letters to the press, his speeches and lectures in public were examined. It resulted in revealing the interactive process between literature and media and in suggesting the effectiveness of studying literature along with the media discourse.

研究分野：英語圏文学

キーワード：イギリス文学 グレアム・グリーン 冷戦 メディア 反米主義 キューバ危機 キム・フィルビー
イギリス諜報機関

1. 研究開始当初の背景

今世紀に入り海外のグレアム・グリーン研究においては、主要作品以外の周縁テキスト(書評、手紙、記事等)が徐々に注目されるようになってきたことに加えて、グリーンがイギリス諜報機関に関わりながら 20 世紀後半の国際状況やポリティカルな問題に強い関心を持つ作家であったことに目を向けた研究が目立つようになった。(Michael G. Brennan, *Graham Greene: Political Writer*, 2016 等)

本研究代表者は『グレアム・グリーン文学事典』(山形和美編、彩流社、2004)の編集に参画する中で、グリーンメディアへの強い関心とメディアを巧みに使うその手法に気づき、2009~2011 年、基盤研究(C)(課題番号 21520305、「グレアム・グリーンメディア表象 投書と映画」)において、グリーンが *The Times* 等に寄せた「投書」を分類・検証した。

さらに、第二次世界大戦後により焦点を合わせ、2013~2016 年、科学研究費、基盤研究(C)、課題番号 25370329「グレアム・グリーン文学と第二次世界大戦後のメディア・ポリティクス」の研究として、この時期のグリーンがメディアとの間で展開した言説空間を検証・考察を行った。

このようなプロセスの中で見えてきたのは、極めてポリティカルであったこの時代のグリーンの一連の言説を「冷戦」という文脈で読み解くことの重要性である。グリーン文学を冷戦パラダイムの中で捉えようとする研究には、Andrew Hammond, *British Fiction and the Cold War* (2013)等の論考があるものの、まだ十分とは言えない。また漸く明らかになりつつあるグリーンとイギリス諜報機関との関わりについては、さらなる調査・研究が必要であることを痛感し、本研究へと繋がった次第である。

2. 研究の目的

本研究は、世界が政治的に高度に構造化されていた<冷戦>という期間において、グリーンがキューバやハイチ等の第三世界と深く関わり書いた作品と、同時に新聞・雑誌等のメディアに発信した政治的言説を分析・検証し、いかなる状況下でどのような言説空間を形成したかを考察するものであるが、具体的には次の3点を明らかにしていくことを目標とした。

(1) <冷戦>文学としてどのような読みが可能となるか。

<冷戦>期の第三世界を舞台とした *Our Man in Havana*(1958)、*The Honorary Consul* (1973)、*The Human Factor*(1978) を再読し分析する。

(2) グリーンがメディアで発信したメッセージの解読と意義

作品と同時期の政治的状況や文学/文化についてメディアを介して発信したグリーンの言説を収集・分析し、背景等を<冷戦>期のメディア・ポリティクスの中で考察する。

(3) グリーンの<冷戦>期におけるエスピオナージュ

未だ謎の多いグリーンスパイとしての側面について、情報公開されているものを整理しながら考察し、可能な限り全体像に近づくことを試みる。またイギリスを裏切った経緯などが徐々に明らかになってきている、かつての上司でもあったソ連のダブルスパイ、キム・フィルビーについての資料も収集・分析し、グリーンとの関わりを *The Human Factor* (1978) を精読しつつ推察・考察する。

3. 研究の方法

本研究の具体的な進め方は、(1) <冷戦>期の文学についての考察、(2) <冷戦>という文

脈からのグリーン作品の再読・分析、(3)新聞等への投書の収集・分析、(4)グリーンのスバイ活動に関する資料の収集と検証、及び考察の4つにまとめられる。

(1)に関しては、Andrew Hammond, *British Fiction and the Cold War* (2013)、Kristin Matthews, *Reading America: Democracy and Cold War Literature* (2016) 等を読み、<冷戦>期における文化や文学について知見を広め考察した。(2)で扱う作品は *Our Man in Havana*(1958)、*The Honorary Consul* (1973)、*The Human Factor* (1978)であり、それらを精読し、また Dermot Gilvary (ed.), *Dangerous Edges of Graham Greene* (2012) や、Michael G. Brennan, *Graham Greene: Political Writer* (2016)等の先行研究を参考に分析を進めた。さらに(3)の投書については Christopher Hawtree(ed.), *Yours etc.: Letters to the Press 1945-89* (1989)に収められているものを中心に分類・分析を行う他、期間中ロンドンにある大英図書館に赴き、<冷戦>期の言説空間に関する資料を集めた。(4)については、Michael G. Brennan, *Graham Greene: Fiction, Faith and Authorship* (2010)や Brian Lindsay Thomson, *Graham Greene and the Politics of Popular Fiction and Film* (2009)等の先行研究を参考にしたほか、ロンドンにある英国立文書館で、今は公開となっている外務省のファイルを閲覧した。

4. 研究成果

研究成果をまとめると以下のようなものになる。

- (1) グリーンの *Our Man in Havana* が、1958年に出版されたものであるにも関わらず、翌年のキューバ革命や1962年のキューバミサイル危機を予測していたかのような内容になりえているのは、キューバを度々訪れていたグリーンが、その取材の中で現地での革命の気運や反米感情を察知し、当時の米ソの駆け引きなどの政治情勢を冷徹に見極めた上での深い洞察に基づくものであることが、1960年前後にグリーンが発信した数々のメディアへの投稿や記事を検証することでわかってきた。
さらにキューバ革命後にグリーンが『タイムズ』紙等に寄せた一連のイギリス政府批判からうかがえる姿勢は、当時のキューバ大使館から外務省に送られた報告書からも裏付けられた。
- (2) *The Honorary Consul* は冷戦下の南米の政治的状況や宗教界の革新的動きに対するグリーンの関心の強さ、及び知識の深さを示すものでもある。彼が南米に取材して *The Daily Telegraph* 等のメディアに寄せた記事は、カミロ・トレスや解放の神学への幅広い知見を示唆するものでもあった。
- (3) 1969年のグリーンのハンブルグ大学での講演の内容は、グリーンが考える冷戦期の作家のあるべき姿勢を最もシンボリックに示していることがわかった。講演内容の核となる部分は、以前にプリチェットとの往復書簡の中で示されていたが、1968年の「プラハの春」や「チェコ事件」等の冷戦中期の重要なエポックを経てのグリーンの信念を示すものでもあった。そしてそれは同時期に執筆し始めた *The Human Factor* に反映されている。
- (4) グリーン研究ではこれまで確認・発表されていなかった資料(グリーンに関してのキューバの英国大使館の電報等)を見つけることもできた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大で最後の2年間は渡英が出来なかったこともあり、期間中にグリーンとMI6の具体的な関係を示すさらなるエビデンスの発見には至らなかった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 阿部 曜子	4. 巻 第37号
2. 論文標題 「見る」物語 グレアム・グリーン『第三の男』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『キリスト教文学研究』	6. 最初と最後の頁 15-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部 曜子	4. 巻 28
2. 論文標題 冷戦中期のグレアム・グリーン：『ヒューマン・ファクター』を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鳴門英語研究 = Naruto English studies	6. 最初と最後の頁 15～26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24727/00028897	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 阿部 曜子	4. 巻 第34号
2. 論文標題 グレアム・グリーン『権力と栄光』 遠藤周作『沈黙』の起点として	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『キリスト教文藝』	6. 最初と最後の頁 41 - 58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部 曜子	4. 巻 第50巻
2. 論文標題 グレアム・グリーンと冷戦 その1 キューバをめぐる	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 四国大学紀要 人文・社会科学編	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 阿部 曜子	4. 巻 第13号
2. 論文標題 グレアム・グリーン『ヒューマン・ファクター』を読む遠藤周作『深い河』への影響を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『遠藤周作研究』	6. 最初と最後の頁 27-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部 曜子	4. 巻 第39号
2. 論文標題 <闘う神父>の物語、グレアム・グリーン『名誉領事』を多角的に読む	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『キリスト教文学研究』	6. 最初と最後の頁 104-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 阿部 曜子
2. 発表標題 「見る」物語 グレアム・グリーン『第三の男』(シンポジウム:文化表象とキリスト教 「見る言葉」)
3. 学会等名 日本キリスト教文学会 2019年度第48回全国大会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阿部 曜子
2. 発表標題 グレアム・グリーン『ヒューマン・ファクター』を読む遠藤周作『深い河』への影響を中心に
3. 学会等名 遠藤周作学会 2019年度第14回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阿部曜子
2. 発表標題 グレアム・グリーン『力と栄光』 遠藤周作『沈黙』の起点として
3. 学会等名 日本キリスト教文学会関西支部 冬季大会 公開討論会（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 遠藤周作学会、川島 秀一、山根 道公、兼子 盾夫、笛木 美佳、マーク・ウィリアムズ、池田 静香、細川 正義、奥野 政元、北田 雄一、古浦 修子、今井 真理、長濱 拓磨、阿部 曜子ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 鼎書房	5. 総ページ数 560
3. 書名 遠藤周作事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

論文集 阿部曜子『冷戦とグレアム・グリーン 文学・政治・メディア』（2022年、徳島県教育印刷）
--

6. 研究組織						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)</th> <th>所属研究機関・部局・職 (機関番号)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考			
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考				

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------